

(仮称)益城町復興まちづくり支援施設展示業務

1. 新庁舎整備事業の概要

- ① 計画概要
- 町では、令和4年度（2022年度）中の供用開始を目指して、新庁舎建設事業を進めており、復興まちづくり支援施設（仮称）（以下、「まちづくり施設」という。）は当事業の一環として、令和3年度中の完成を予定している。
- ・所在地：益城町大字宮園702番地　ほか

【新庁舎】

【復興まちづくり支援施設（仮称）】

・建物構造：免震構造、鉄筋コンクリート造（主構造）

・建物構造：耐震構造、木造

・階数：地上4階建て

・階数：地上1階建て

・延べ面積：6,865.98平方メートル

・延べ面積：398.80平方メートル
- ② 配置計画
- 大きく、**新庁舎、まちづくり施設、街区公園**の3つで構成され、**一体的な利用**を想定し、敷地南側に建設予定の交通広場との連携も図りやすい、敷地中央から南側に集約配置している。敷地は、段差をできるだけ無くし、なだらかな一面の土地として整備する。来庁者が利用しやすく、バリアフリーに配慮し、災害が発生した場合に活動広場としての機能も有する。



2. 上位計画「益城町復興まちづくり支援施設整備基本計画」の概要

- ① 目的
- 地域のコミュニティ再生の拠点として、**熊本地震からの記憶の継承**による防災教育等の場となる施設を目指し、整備するもの。
- ② 第6次益城町総合計画における基本計画の位置づけ
- まちづくり施設は、地域コミュニティの再生の拠点となることから、町の総合計画として掲げる8つの「まちづくり大綱」のうち、「**誰もが主役**になれる個性的なまちづくり（住民主体のまちづくりの推進）」に位置づけられる。

- ③ 基本理念（整備目標）
- まちづくり施設は、町における地域コミュニティの再生と地域活力の復興の拠点として、広く住民に利用され、親しまれることを目標とし、施設の目指す姿を『**人をつなぎ、まちをはぐくむ場**』とする。
- ④ 基本方針と基本機能
- 【基本方針1】気軽に集える住民活動と交流の場（基本機能）

・**ユニバーサルデザインによる整備**

・自由に出入りができる施設計画

・復興に質する多目的な利用への対応（会議・研修・講演等）

・**屋外との連続性**の確保（歩行空間としての配慮）

・多様な利用者に配慮したトイレの整備

【基本方針2】熊本地震の記憶の継承の場（基本機能）

・**展示機能や研修等に利用できるスペースの確保**

【基本方針3】災害に備える場（基本機能）

・一時避難の受け入れや応急対策活動スペース、備蓄倉庫

・電力や給排水設備等の機能維持

・災害情報の提供
- ⑤ 施設概要等
- 別紙のとおり

3. 関連計画「熊本地震震災ミュージアム基本計画」の概要

- ① 目的
- 熊本地震の記憶や経験、教訓等を風化させず、確実に後世に伝承**する震災ミュージアムの取組みをさらに前に進めるため、基本方針に基づき、震災遺構の保存方法や拠点整備の方向性、今後取り組む情報発信の取組み等について具体的にまとめたもの。
- ② まちづくり施設の位置づけ
- まちづくり施設は、「**自然の恵み、祈りと暮らし、震災の教訓と伝承、自然との共生**」を地域の訴求テーマとして、新庁舎や他の拠点施設とともに、以下の役割を担う。
- ・震災ミュージアム全体のガイダンス（共通展示）

・地域の震災遺構等のガイダンス

・自然の恵み、自然との共生の歴史を知ってもらう

・地表地震断層とその特徴を知ってもらう

・断層の最先端研究の成果を公表する

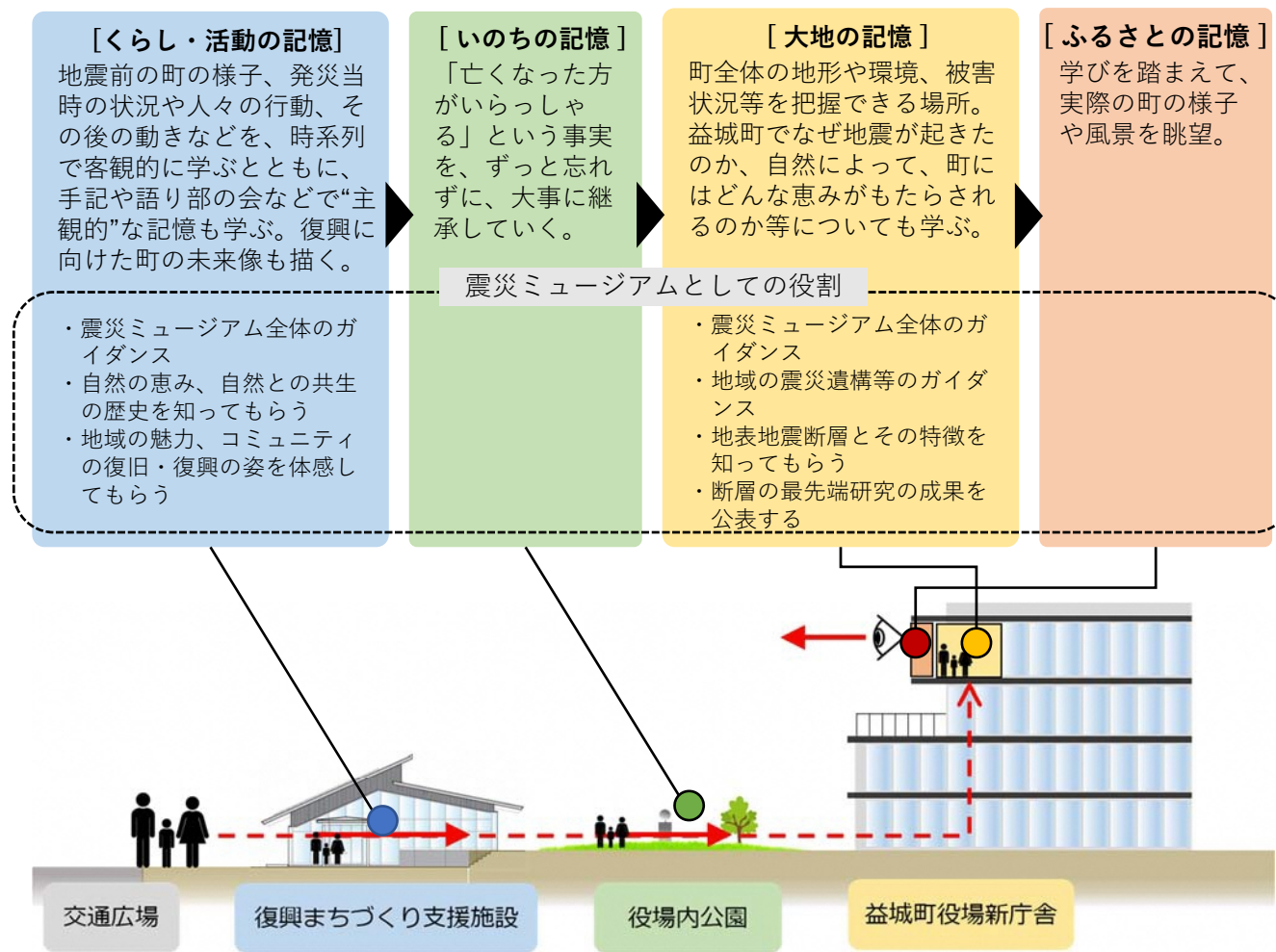
・地域の魅力、コミュニティの復旧・復興の姿を体感してもらう

3. 展示の基本的な考え方

- ① 展示のターゲット
- 展示のメインターゲットは、当施設の設置目的である「熊本地震からの記憶の継承」の主役となる益城町の住民（以下、「住民」という。）とする。その上で、庁舎での行政サービスの利用、様々なイベントや会合、公園での憩いなど、普段使いで多目的に訪れる住民を主たる利用者として、その特性に配慮した展示を展開する。
- また、町外からの来訪者をサブターゲットとし、新庁舎と一体的に、熊本地震震災ミュージアムの拠点施設としての役割を果たすことを図る。

	益城町の住民	町外からの来訪者
利用者像	・庁舎での行政サービスの利用 ・様々なイベント参加や会合 ・公園での憩い など多目的な施設利用者	・一般観光客 ・学校団体、修学旅行 ・研究者、研究団体
利用者特性	・不定期だがリピート頻度は高い ・他に主目的があり施設の滞在時間を長くは望めない ・幼児から高齢者まで年代層は幅広い ・そもそも、当施設（展示）の存在が認識されていない可能性がある	・リピート性は低い ・展示見学が主目的であり、比較的長時間の滞在を見込める ・団体での利用者も多い ・新庁舎の展示と一体的に見学

② 新庁舎、街区公園と一体化したテーマ展開



4. 展示のストーリー

- ① 展示コンセプト
- “記憶が人をつなぎ、未来へとつながる、記憶のプロムナード”
- ここに来ると、震災の記憶に寄り添うことができます
- ここに来ると、益城町で生きる人々と出会うことができます
- ここに来ると、益城町の未来の姿、住民の未来への思いが伝わります
- ここは、益城町の「これまで」と「これから」を道行く、細くて小さな散歩道です
- ② 展示方針
- 【展示方針1】住民が主役の展示
- ・避難所で使われた物品等を展示し、それにまつわる記憶を来館者が自由に書き残せる参加型の展示コーナーを設ける
- 【展示方針2】いつ訪れても何かが新しい展示
- ・更新性、拡張性のある展示システムを取り入れる
- ・住民から寄せられた手記や物品は定期的に入れ替えを行う
- 【展示方針3】他事業と連動・連携した展示
- ・他施設との一体化したストーリーを構築する
- ・アーカイブス事業と連携し、展示物の提供を受ける
- ・語り部活動と連携し、活動の舞台として活用してもらう
- ③ まちづくり施設の展示ストーリー
- ふるさと
益城町

4.14/4.16
発災

あのとき、
私たちは。

そして未来へ
- 熊本県中部に位置し、熊本市東部に隣接する益城町は、田園と都市の調和のとれた、住みやすい、暮らしやすい町として発展してきた。
- ・多くの名所や文化財を有する、歴史と文化の香る町
- ・豊かな自然から美しい水、温泉など様々な恩恵を受けてきた町
- ・多彩な行事やイベント、祭などを通して住民の交流が盛んだった町
- 豊かな自然とは裏腹に、大いなる自然の脅威がそこにはあった。
- そして、その日は突然やって来た。
- ・熊本地震の特徴である前震・本震という2回の巨大地震。
- ・その後に続いた、おびただしい数の余震について実相を紹介
- ・発災直後の報道映像を用い、甚大な被害や街の混乱を紹介
- 避難生活は困難を極め、様々な問題に直面したが、そこには力を合わせ、前向きに、懸命に生きる住民たちの姿があった。
- ・避難所の様子、仮設住宅でのくらしの様子
- ・全国からかけつけたボランティアをはじめとした様々な支援の輪
- ・住民の手記や物的資料によって、人目線での記録を紹介
- 時が経つとともに再建・復興は進み、震災の面影も徐々に姿を消す中、震災の記憶を風化させることなく、住民とともに、町の未来像を描く。
- ・再建の様子や、復興に向けたランドデザイン等を紹介
- ・住民一人一人の再建や復興に対する思い、願いをパワフルに紹介

展示構成リスト

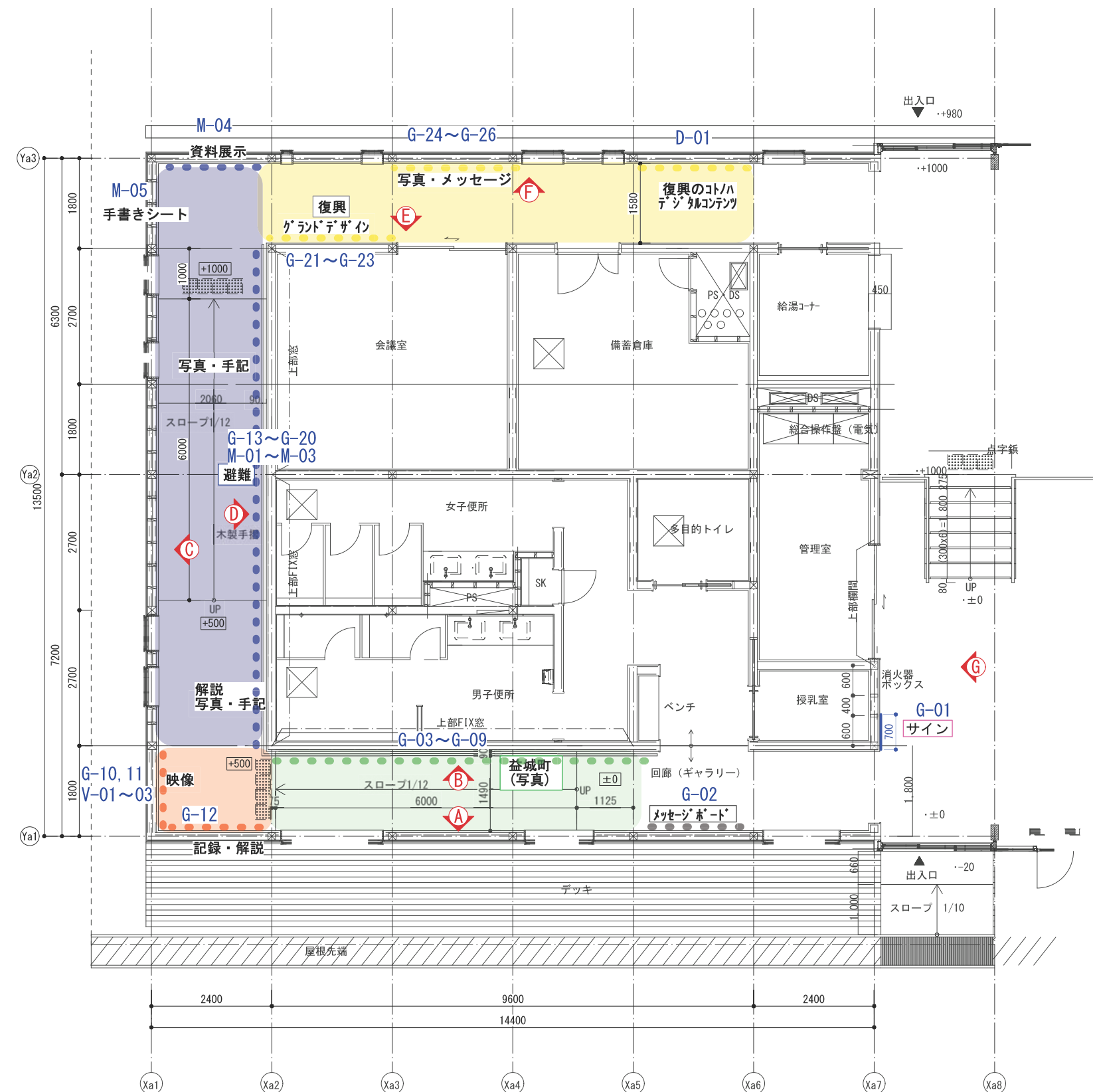
コーナー	展示ストーリー	展示のねらい	展示方針	展示No.	展示タイトル	展示手法	展示内容	備考
Ⅰ 導入部				G01	記憶のプロムナード	サイン		施設サインも兼ねる
				G02	メッセージボード	グラフィック	展示の趣旨説明	施設概要/まちづくり施設/公園/庁舎のストーリー/震災ミュージアムとしての役割も紹介
Ⅱ ふるさと 益城町	熊本県中部、熊本市東部に隣接する益城町は、田園と都市の調和のとれた、暮らしやすい町として発展してきた。	震災前から現在まで続く、自然豊かで活気あふれた益城町の様子を多角的に紹介する。	・画像資料をベースに壁面にグラフィック展開する。 ・町の概要を起点に、「恵まれた水と緑」「豊かな実り」「文化と歴史」「人びとの営み」の5つの観点から、写真とタイトルコピー（キャプション）で町の特徴をわかりやすく紹介する。	G03	ふるさと益城町	サイン		
				G05	私たちのふるさと	グラフィック	益城町の概要説明（概略図、各種データ、グラフ、解説文）	画像素材、データ等支給（一部作図）
				G06	恵まれた水と緑	グラフィック	自然風景画像/キャプション	画像素材支給 それぞれにキャプションor写真タイトル
				G07	豊かな実り	グラフィック	特産品画像/キャプション	画像素材支給 それぞれにキャプションor写真タイトル
				G08	文化と歴史	グラフィック	史跡画像/キャプション	画像素材支給 それぞれにキャプションor写真タイトル
				G09	人びとの営み	グラフィック	移住、子育て、祭り等の画像/キャプション	画像素材支給 それぞれにキャプションor写真タイトル
Ⅲ 4.14/4.16 発災	町を襲った二度の巨大地震。突然の災害によって町は大きく姿を変え、平穏な日常は奪われた。	前震、本震によって町が受けた被害の大きさ、自然災害の恐ろしさを伝える。	・発災当初に撮影された映像や画像資料をグラフィック展開する。 ・壁面に3つのモニターを縦列配置し、異なる場面の発災映像を放映。突然の災害から受けた衝撃を表現する。 ・地震の実相を解説するパネルでは最大震度7、余震総数4,364回、全壊1,744棟など、数字を印象的に用い、被害の大きさを的確に伝える。	G10	4.14/4.16 発災	サイン		
				V1	甚大な被害①	映像	発災時の報道映像	素材要検討
				V2	甚大な被害②	映像	発災時の報道映像	支給（購入検討？）
				V3	甚大な被害③	映像	発災時の報道映像	素材要検討
				G12	熊本地震と益城町	グラフィック	熊本地震の実相資料（図解、グラフ、地図）/解説	資料支給、作画
Ⅳ あのと き、私 たちは。	さまざまな苦しみ、嘆きの中、町民たちは混乱の日々を懸命に生きる。そこには知恵を出し合い、助け合う姿もあった。	避難所での辛い思い出や嘆きに加え、苦しい日々の中でも光った希望（自衛隊や行政職員の奮闘、住民たちの自主的な工夫、助け合いの様子など）を紹介する。	・避難生活の様子を時系列に沿って壁面にグラフィック展開する。 ・「町を襲った二度の地震」「避難所の混乱」「懸命な救援活動」「手を取り合っ て」「長引く避難生活」の4テーマに分類。それぞれのテーマに沿った写真コラージュを1セットとして形成する。 ・町民による手記（3箇所）を配置する。 ・左奥のコーナーでは、避難所で実際に使用された実物資料を展示。それにまつわる記憶を来館者が随時更新できる手作りスタイルのパネル展示を行う。	G13	あのと、私たちは。	サイン		
				G16	町を襲った二度の地震	グラフィック	避難所生活の写真コラージュ/解説	画像素材支給
				M1	手記①	手記（複製）	町民による手記	アクリルケースにて展示（差替可能）
				G17	避難所の混乱	グラフィック	避難所生活の写真コラージュ/解説	画像素材支給
				G18	懸命な救援活動	グラフィック	行政職員の写真コラージュ/解説	画像素材支給
				M2	手記②	手記（複製）	町民による手記	アクリルケースにて展示（差替可能）
				G19	手を取り合って	グラフィック	住民の活動・工夫の写真コラージュ/解説	画像素材支給
				G20	長引く避難生活	グラフィック	復興住宅等、長期的な避難生活の写真コラージュ/解説	画像素材支給
				M3	手記③	手記（複製）	町民による手記	アクリルケースにて展示（差替可能）
				M4	記憶をたどる、未来へつなぐ。	物品	避難の実態を物語る実物資料	支給（差替可能）
				M5	記憶をたどる、未来へつなぐ。	手描き展示パネル	来館者が被災体験をシートに綴る	支給（随時更新）
Ⅴ そして未 来へ	多くの支援のもと、再建と復興が進む益城町の姿。震災によって失われたものは大き 地元・益城町は今も変わらずここにある。益城町の未来とともに描き、歩んでいく。	再建・復興に向けて力強く歩み出す益城町の姿や復興のグランドデザイン、他地域へなど、現在及び未来の益城町を描く人々の取り組みを紹介する。	・行政情報コーナーでは、現在の益城町や今後の取り組みについてリアルタイムで紹介する。 ・再建・復興に取り組む人々の笑顔（動画より抜粋）を壁面にグラフィック展開する。 ・最終盤エリアに大型タッチモニターを設置。来館者が自由にメッセージを残し、互いに共有 できる仕掛けを設ける。全館通じて更新性を高め、何 度も来館したくなる施設づくりを目指す。	G21	そして未来へ	サイン		
				G23	これからの益城町	行政情報	2018年時点の復興グランドデザインと進行形の再建スポット（5箇所）	画像素材、データ等支給
				G24	益城町から「ありがとう」	グラフィック	復興・再建に関連する人々の画像/メッセージ	映像素材より画像を抜粋予定
				D1	復興のコトノハ	デジタルコンテンツ	来館者のメッセージをタッチモニターに表示	随時更新

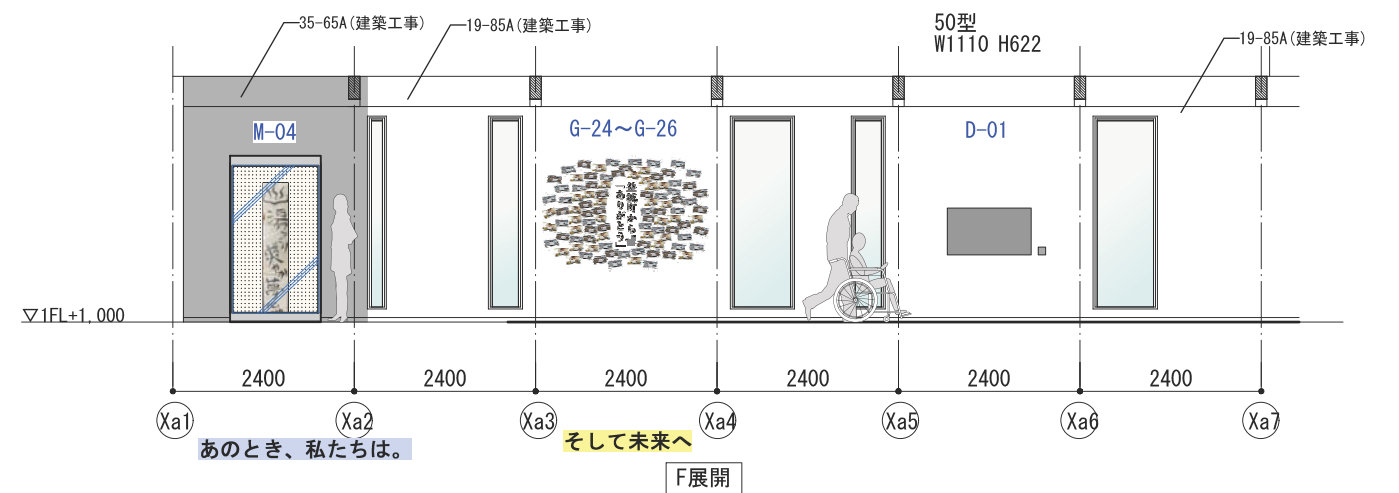
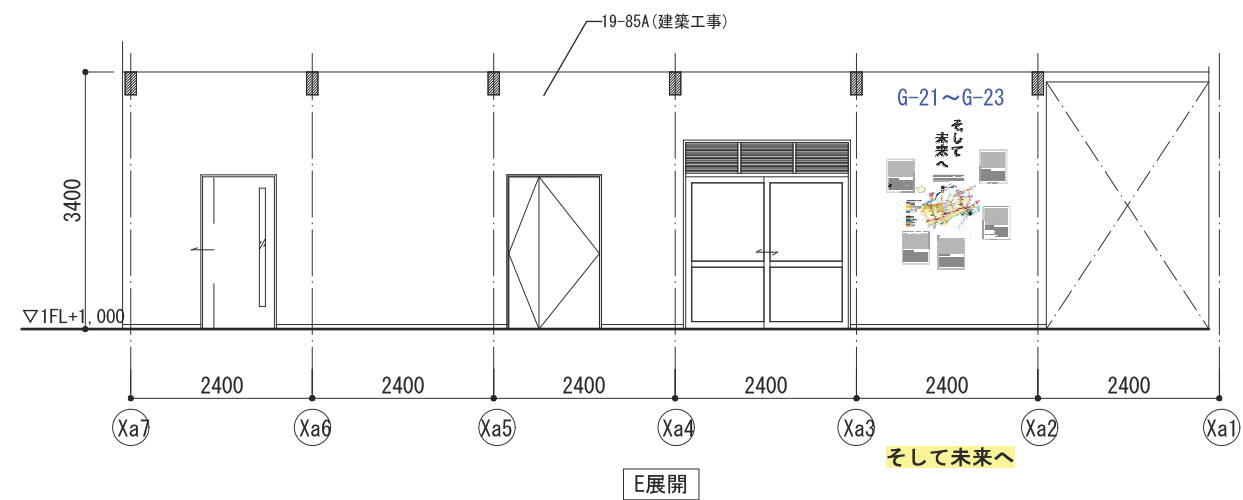
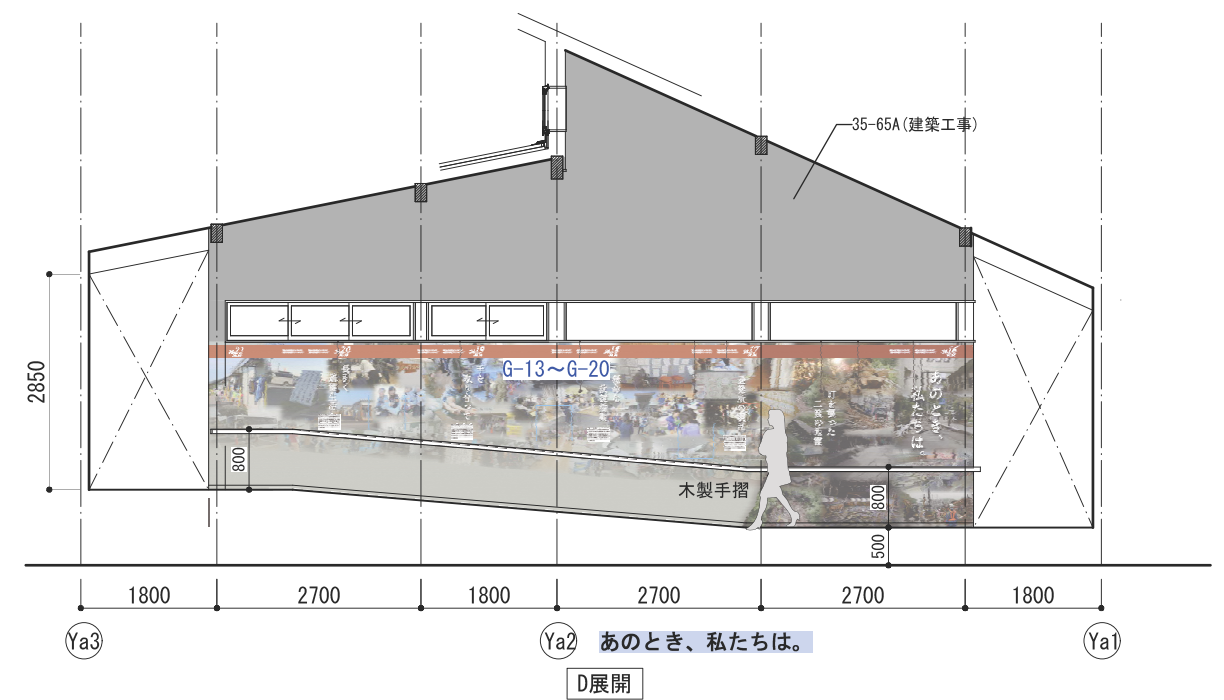
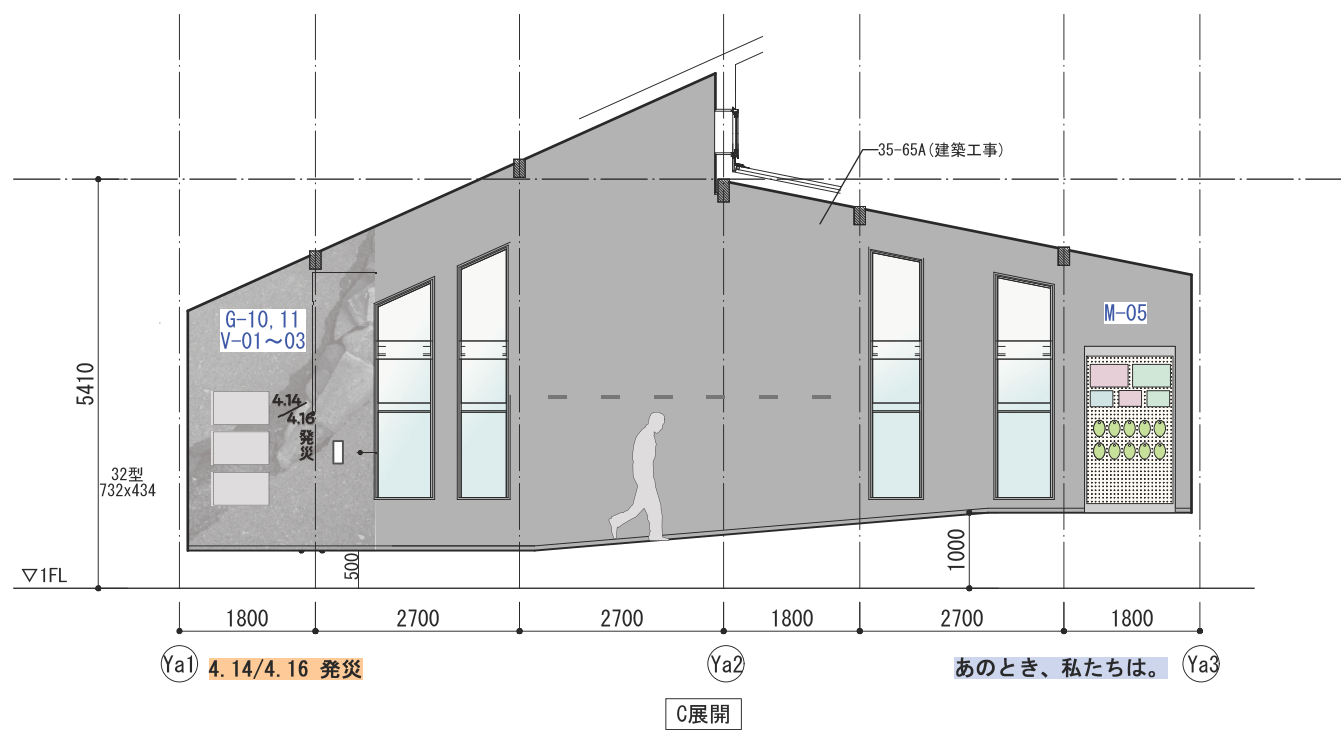
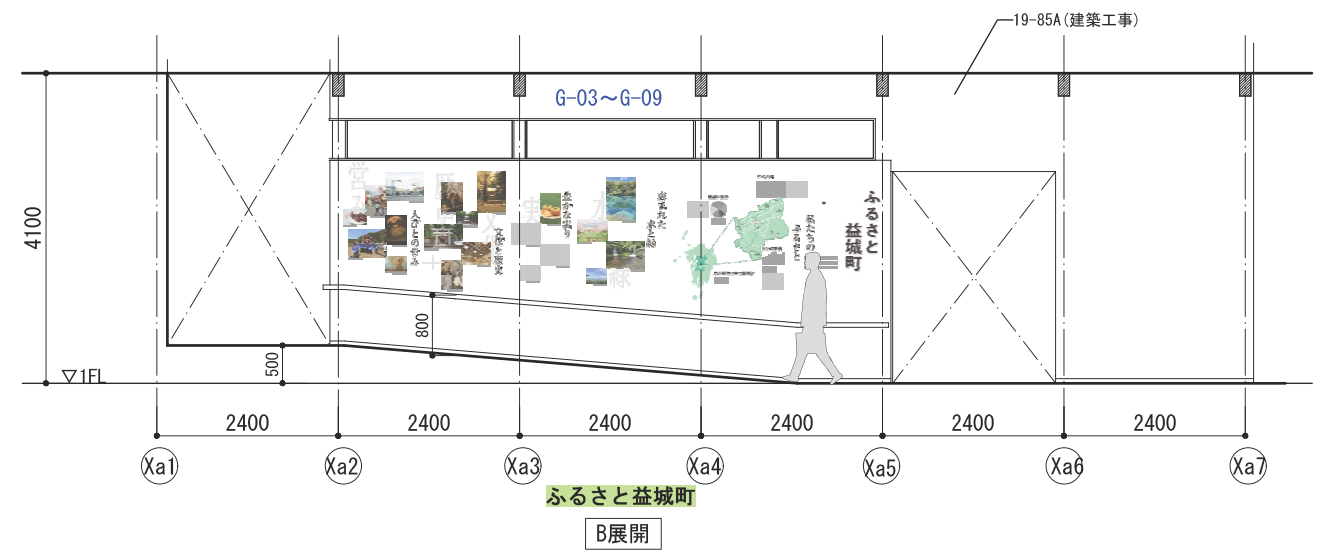
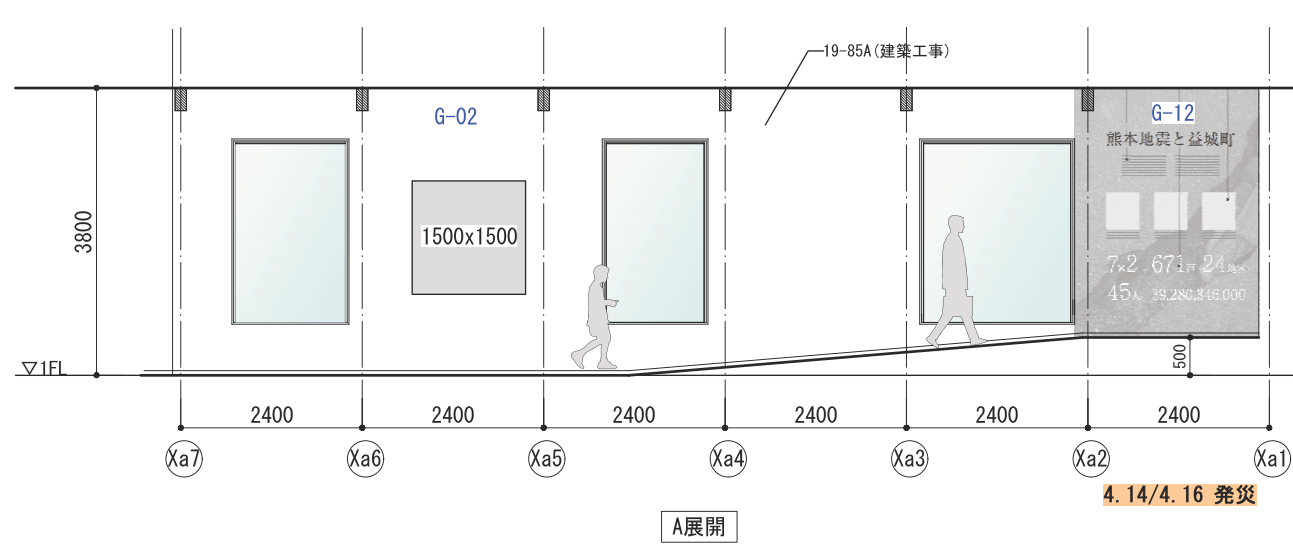


ゾーニング凡例

- ふるさと益城町
- 4.14/4.16 発災
- あのとき、私たちは。
- そして未来へ

A 展開図参照記号





MEMO

REVISION

TITLE

益城町復興まちづくり支援施設展示業務

DRAWN

DESIGNED

CHECKED

SUBJECTS

展開図(1)

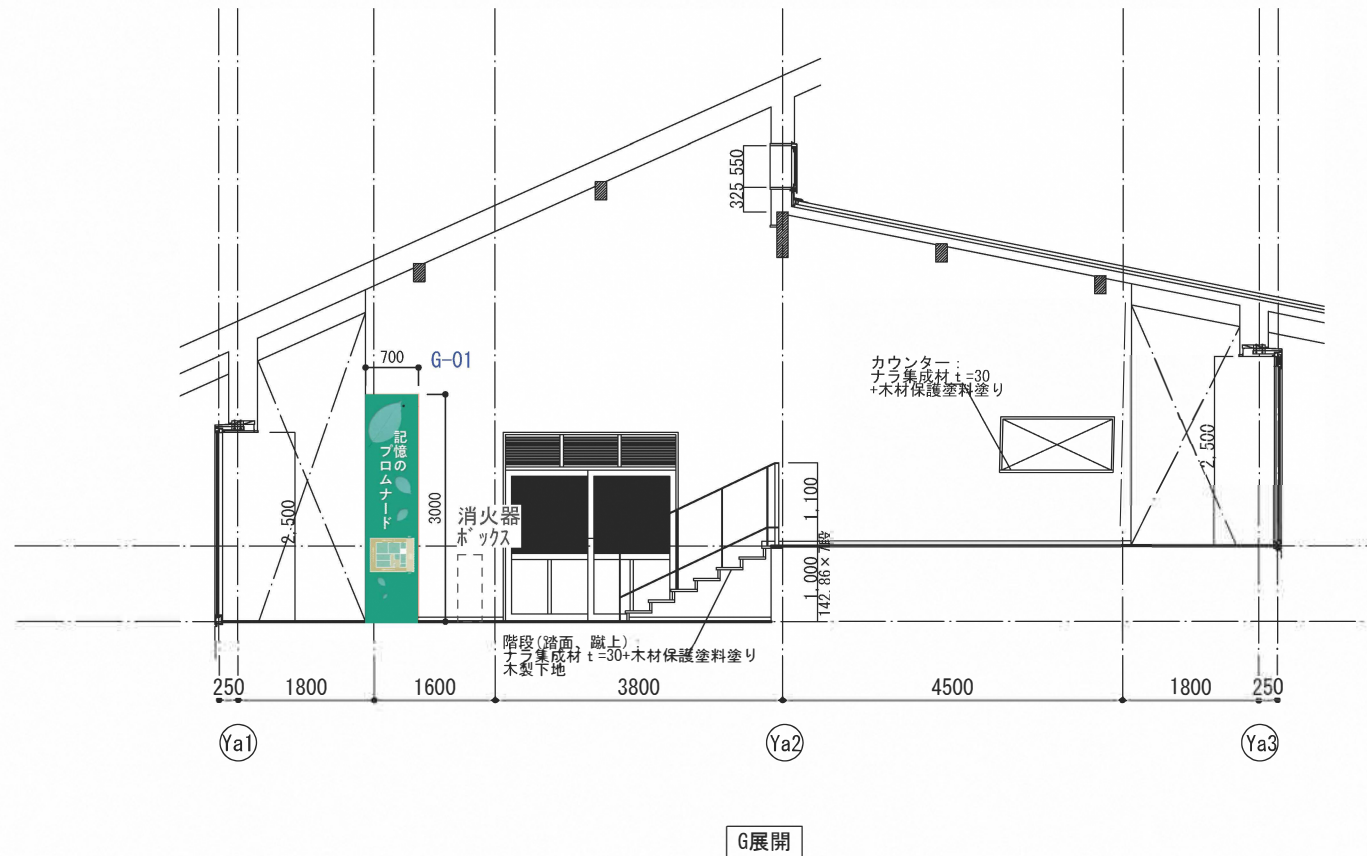
DATE

2021.11.02

SCALE

1:100 (A3)

NO.



MEMO

REVISION



TITLE

(仮称) 益城町復興まちづくり支援施設展示業務

SUBJECTS

展開図(2)

NO

DRAWN

DESIGNED

CHECKED

DATE

2021. 11. 02

SCALE

1:100 (A3)